

【参考資料】患者プログラム参加者インタビュー③

参加者：Cさん インタビュー実施日：2023/1/10

現在のお仕事

契約社員で、週に2日ぐらいの勤務で、簡単な勤怠管理とか、出退勤に関するスタッフさんの管理、経費の管理・ファイリングなどを行っています。(仕事とは別に)自分でがん患者向けの地域活動を始めています。

新卒で就職してからPRの仕事をしていたのですが、結婚してからずっと専業主婦だったんですね。介護と子育て、その時の事にずっと時間を使っていて、10年間、外で働くことから遠ざかっておりました。それで介護していた母が亡くなって、子供たちもそろそろ中学・高校にあがる頃だったので、何か仕事を探そうかなと思っていたちょうど矢先ががんが分かったので、本当に仕事からはすごく離れてました。加齢なのか、化学治療の影響なのか、なんとなく記憶力が落ちていることを自覚する部分があったので、こんな状態で働けるのか、すごく心配でしたが、りばらで色々体験させていただいた後に、こういうお話がきたので、やってみたら、とりあえず半年は何かという感じですね。

りばら参加のきっかけ

自分の過去のキャリアって一体何だったんだろうなというところを整理したかったので、キャリアコンサルティングを受けてみたかったです。子育ても治療も落ち着いて、何かしようとは思っていたのですが、企業で働くのはもうだめだと諦めていたので、じゃあNPOだとか他の活動で何かできないかなと思ったときに、私は力を出せる何かがあるかな？何ができるかな？と。出来るとなると、過去にやっていたこと、もしくは子育てとか介護を通じて自分が経験したことぐらいしか持っていないので、それは今どういう価値があるか見極めたい、人の意見を聞きたい、そこだったと思います。

りばらに参加してみた

初回の時には、自分の棚卸、いわゆるライフラインチャートを書く時はきつときつだろうなと思っていました。実際の会では、プログラム運営の方は、「あなたはこう」というジャッジは決してせずに、「あなたはどうか？」と聴かれます。そうすると自分で自分のことを考えなければならなくて、初めはそれにドキドキしていたのですが、慣れてくると、その問いかけに引き出してもらうことで、少しずつ整理ができてきて。それを何回もやっているうちに、割と落ち着いて自分の過去を思い出して書けました。書いてみると、自分はネガティブな事しかないのかなと思っていたところが、意外と私は私なりに頑張ってたとか、客観的にみたらこの経歴は悪くはないよねというのが見られたので、そこがすごく大きかったです。

りばらを終えた自身の変化

【参考資料】患者プログラム参加者インタビュー③

参加者：Cさん インタビュー実施日：2023/1/10

一週間のお仕事体験で、企業の社内報づくりをやらせてもらいました。（お仕事は）タイトな時間振りだったのですが、すごくいい意味で興奮状態というか、私やっぱりこういう仕事が好きなんだというのが分かって。お仕事を終えたあと、りぼらプログラム担当の方から「Cさん、全然ブランク感じないから、大丈夫」と仰っていただいた一言が私にとっては劇的な言葉で、それに後押しされて、オンラインで仕事をやればできるかも、という気づきがあって。その後りぼらのカウンセリングで、実際に仕事のブランクがあるし、履歴書にブランクがあると駄目ですよ？って話をしたら、今私が経験している色んなことが実績になるから大丈夫よ、と仰っていただいたんです。お金貰って何かをした経歴しか実績にしちゃいけないと思っていたので、「経験が実績になる」という名言もまたすごい驚きで。「ブランク感じない」という言葉と「経験は実績になる」という2つの言葉が、ずっと御守りであり、後押ししてくれて、1年経ったら、色んなことをしていました。（笑）

私は乳房再建の時にトラブルのような事に巻き込まれて大変だった時期に、あるNPOにすごく助けられたので、そのお手伝いをして恩返しをしたい、乳房再建の事を伝えたいというのが1つと、地域で女性のがん患者さんが中々知り合う機会が少なくて孤立してしまうということがあります、居場所づくりやネットワークづくりがしたい、というその2点の想いを抱いていました。地域の活動はやりたいなと思っていたのですが、きっかけがなくて何もしていなかったんです。でもそのNPOのお手伝いをするためにとった資格の繋がりで、色々な団体から、こういうプログラムもありますよとお声がかかって、それに参加していくうちに、自分が何がしたいのかがちょっとずつ形になってきて、地域の子育て中のお母さんたちと話をできる場を作りたいということをブラッシュアップしながらやっていたら、日本対がん協会のアドボケート活動助成に選ばれて。今は団体を立ち上げて、地元で子育て中のがんのお母さんが対面で集まる場所を作っています。（その活動の支援を）市役所の方にご相談させていただいたら、色々教えていただいて、市役所との共同事業の選考に残り、今度最終プレゼンが通ると、2023年度の活動ができるという形です。

りぼらはどういう場であったか

自分が思ってたって、何かしようとするときに、すごく不安があるのですが、色んな人の目を通して、私に対する感想とかをもらおうと、私これやってもいいのかな！と、そういう気持ちにもなりました。りぼらに参加して、「私はこういう人なんでこうです」という（風に決めつける）のは止めようと思って。人からどう言われるとか、人が私をどう評価してくれるのかという事に耳を傾けると、私そういう風にみてもらってるんだ、という励みや気づきでした。自分のプライベートの中身ではなくて“気持ち”をみんなの前で話して、普段全然お付き合いのないような、タイプの全然違う方々から感想をもらえる場は、りぼらぐらいなんじゃないですかね。すごい楽しかったです、りぼらに参加して。以上